

ピアス皮膚炎になる三条件を 作ったのは、すべて私です

O.L・主婦 入内島恵子さん(30歳)

ピアス皮膚炎が問題にされるのは、専門医ではないところで、耳に穴を開けた場合だといわれています。その意味で、私の場合はすべて自分に責任があります(笑)。
二十四、五歳の頃でした。原宿のピアスの店でピアスを買って、専門医の先生のところまで穴を開けたわけですから。

悪化した原因は三つ考えられます。
まず、私のケアがルーズだったこと。夜寝相が悪いにもかかわらず、ピアスをしたまま寝てしまっただけで、耳を圧迫していたんですね。

さらに、電話を日に何十本も受けるという、今の仕事に転職してしまつたことが、拍車をかけたと思います。これが第二。

電話が速い、つい受話器を耳に押しつけてしまつて。多い日には百本の電話を受けますから、かなりの頻度で耳を圧迫してはまずです。



受話器をヘッドホンに替えました



どうどう、耳が痒くなり始めて、次第に赤くなり、ついには膿まで出るようになってしまつたんです。耳がグジャグジャになってしまつて、腐っていくんじゃないかと思ひましたよ。

その頃は、さすがに、ピアスをしていゝ上に、圧迫しているからだ、ということばかりでしたから、すぐに高橋先生のところに行つたわけですよ。

先生に言われて初めて、第三番目の原因を知つたんです(笑)。私のピアスは十八金(K)だったために、金属アレルギー症を起こしてしまつていたので。

治療して治りかけの頃、痒みをがまんして、元に戻らないように気をつけていましたけれど、一週間の治療で完治しましたね。同僚の間でも「職業病」と言われるほど、ピアス皮膚炎は多いのですが、今は、受話器ではなくヘッドホンに替えて圧迫を解消しました。もちろん、寝るときには必ずはずしていますし、ファンパツして二十四Kを買いました(笑)。

ピアス皮膚炎

金属アレルギーの知識不足で悪化

ピアス皮膚炎とは、ピアスの穴に浸出液が溜まつて化膿したり、つけている消毒液にかぶれたりするものです。

原因は、ピアスの穴を開けるピアッシングの技術、もしくはその後のケアに問題があるためです。

日本では、ピアッシングは医療行為とされており、病院で行うようになっていますが、「スタッド」と呼ばれる、アメリカ製の穴開け専用のピアスを使用している病院なら、より安心です。

ピアッシングで問題になるのは、「自分で開けられる」という市販のものを、用いて穴を開けた場合です。素人がやれば消毒も不十分で、トラブルも起きやすくなります。しかし、医師にきちんとピアッシングをしてもらっても、

自分でケアを十分にしないために起こる場合も多いようです。

ピアッシングした後、傷口からはリンパ液などの浸出液が絶えず出ているものなのです。その浸出液をうまく外に誘導して、出さなければなりません。そのためにはピアスをよく動かしたり、指でしほる、あるいは、浸出液や消毒液をよく拭き取る必要があります。

浸出液をうまく外に誘導できなかった場合で、さらに問題になるのは、ピアスが十八K(金)であるときです。十八Kのピアスは、軸の直径が〇六ミリと細めにできています。したがって穴も細くなり、細いと浸出液が出てくいてい、悪条件を作りやすいです。

十八Kピアスの純度は七五パーセン

ト、残り二五パーセントは銅やニッケルですが、これらの金属イオンが傷口から入り、体内に拒絶反応を起こします。つまり、金属アレルギーです。

現在、十八Kピアスを用いて穴を開けると、約三〇パーセントに、この皮膚炎が見られます。

化膿して腫れ上がった場合には、膿をすみやかに出さなければいけません。そのためには、シリコン製のリング型をしたピアスを選択して治療します。

ピアスの歴史はたいへんに古く、古代エジプトの時代からありました。抗生物質や消毒液がなかったその頃でも、ピアス皮膚炎は少なかったと思ひます。なぜなら、遺跡から出土する当時のピアスは、現在のものよりはるかに太く、穴の中に浸出液が溜まらず、化膿しなかったのです。

今、十八〜二十歳の女性にピアス皮膚炎が問題になっているのは、この層に愛用する人が集中しているからです。最近では、月十万人ペースでピアス使用者が増えているといわれ、今後ますます患者が増える可能性があります。

ピアス皮膚炎の原因がわかっており、治療法、予防法があるにもかかわらず、増加しているのは、金属アレルギーの正しい知識がないからだと思ひます。

おしやれの情報はどんどん増えるけれども、これに対するトランプの予測が追いつかず、また予防法などの情報が、おしやれの情報に見合っていないことも問題です。(高橋)